

難民問題について考え、支援を!

～イスラム教徒少数民族ロヒンギャの現状～



令和3年8月30日
第 389 号
編集者
館林高校新聞部

館林市にはミャンマー政府の弾圧を逃れて来た約260人のロヒンギャの人が暮らし、国内最大級のコミュニティを形成している。私たちは在日ビルマロヒンギャ協会副会長のアウン・ティンさんを訪ね、ロヒンギャの現状について解説してもらった。

難民キャンプの現状

ミャンマーで1962年に軍事クーデターが起こり、少数民族ロヒンギャに対する扱いが急速的に差別的になり、やがて彼らは「非国民」とみなされた。1988年軍事政権に反対する学生運動が起こり、私たちに話しをしてくれたアウン・ティンさんもその民主化運動に参加していた。しかし、この運動をミャンマー国軍が武力で弾圧したため、アウン・ティンさんは国外へ逃亡し、タイ、マレーシア、バングラディッシュなどを転々とし、最終的に日本へ逃れた。2015年にアウン・サン・スーチー政権が誕生し、民主化が進むように思われたが、しかし、国軍による少数民族ロヒンギャへの弾圧は続いた。多くのロヒンギャが虐

殺され、さらに住居の焼き払いにより、難民キャンプでの生活を余儀なくされ、その状況は現在まで続いている。その生活は、水や食料が不足しており、入浴もできない。そのため、アウン・ティンさんを中心に支援活動が日本から行われてきた。また、安倍前政権時の支援金により、生活必需品や文房具などを購入することもできた。しかし、難民キャンプで生活している人は依然と多く、物資の提供が十分でないため、多くの人々の寄付金やクラウドファンディングによる資金援助が欠かせない。

殺され、さらに住居の焼き払いにより、難民キャンプでの生活を余儀なくされ、その状況は現在まで続いている。その生活は、水や食料が不足しており、入浴もできない。そのため、アウン・ティンさんを中心に支援活動が日本から行われてきた。また、安倍前政権時の支援金により、生活必需品や文房具などを購入することもできた。しかし、難民キャンプで生活している人は依然と多く、物資の提供が十分でないため、多くの人々の寄付金やクラウドファンディングによる資金援助が欠かせない。

ザールにあるロヒンギャの難民キャンプは世界最大規模である。そこでの問題はまず学校である。難民キャンプに学校はあるものの、塾のように公的でないため、正式な卒業証明書を発行できない。また、高等教育の学校がないため専門知識を身につけることができない。したがって、彼らが卒業して国外で就職しようとしても専門職に就くことができない。さらに難民キャンプにいる人の過半数が20歳以下であるため、イスラム過激派

の勧誘の標的にもなっている。さらに最悪なことはサイクロンなどの悪天候により、キャンプが破壊され、住む場所を失ってしまう人もいる。

ミャンマー国軍とロヒンギャ

国軍は現在もロヒンギャを虐殺し、抹殺しようとしている。すでに約30万人が虐殺され、その人口は現在約370万人になっている。ミャンマー国内でのロヒンギャへの差別感情をおおるため、国軍は鉄道をわざと破壊し、ロヒンギャの仕業とでっちあげ、嘘の情報を流したこともある。また、虐殺した人の臓器を中国へ売って、金儲けをする非人道的行為も行っている。アウン・ティンさんは、その行為について、「ヒットラーのユダヤ人虐殺よりもひどい」と怒りをあらわにしていた。



解説するアウン・ティンさん

この状況について、国連はR2P (Responsibility to protect: 保護する責任)を主張した。これは他国に住んでいる私たちが負わなければいけない責任だ。私たちは現状をしっかりと認識し、ロヒンギャの人々を守ることを考えなければならない。

アウン・ティンさんの 思いを受けて

現状を知ろうと努力すべきである。日本はとても平和だが、ミャンマーは、まだ社会の民主化が実現されていない。その現状に私たちは目を向け、行動しなければならぬ。一人ができることには限りがあるかもしれないが、一人一人が互いに協力すれば大きな力を生み出すことができる。私たちは自国の利益だけではなく、もっと世界に目を向ける必要があるのではないだろうか。

今回の取材で、アウン・ティンさんに様々な思いを語っていただいた。虐殺から逃れるために、両親をかごに乗せて一週間も歩き続けた青年の写真を見せながら、私たちに「両親を大切にしてほしい」と涙ぐんで言ってくれた。アウン・ティンさんは、祖国にいるお母さんと会えないからこそ、親と一緒に暮らしている私たちにその思いを強く伝えてくれた。また「国軍のやっていることは非人道的だ。国軍の指導者であるミン・アウン・フラインを許してはいけない。ヒットラーよりも無差別に人を殺している」と強く批判した。彼の非人道的行為を世界中の人々が声高に非難し、彼の暴挙を止めなければならぬ。



後列左から2番目
アウン・ティンさん

支援活動に参加したい方はアジア・チャリティ・ジャパンのHPをご覧ください。
<https://temporarywebsiteacj.cargo.site/>

館林高校出身の先生紹介

本校の卒業生である塩田校長先生と栗原教頭先生に、当時の高校生活についてインタビューをした。

塩田 久敬 校長先生



私は約40年前に本校に在籍していましたが、現在よりもっと自由な雰囲気でした。変わっていかないことは、本校が依然として地域の中核校であることです。その点は良いことです。高校時代に特に記憶に残っていることは、自分が入学時に始まった強歩大会です。当時は52キロもあり、かなり大変な行事でした。他に思い出に残っていることは、入学式や終業式の放送を担当していた放送同好会があったのですが、なくなってしまうことが残念でした。運動部では当時もレスリング部が強く館林高校の魅力でした。また、ポーター部は同好会でした。

現在、校長という立場になって、本校の生徒に伝えたいことは、古き良き男子校で、地域の

中心となっていて本校に在籍していることに誇りを持ってほしいことです。そして、本校をさらに良くするためにいろいろなことに関心を持ち、最後までやりきることを忘れないでください。コロナ禍で不完全燃焼なことは多いと思いますが、高校生活での体験はこれからの人生に大きな影響を及ぼしますので、自信を持って充実した生活を過ごして欲しいです。

栗原 隆 教頭先生



私が在籍していた時は、部室が木造で、鉄の窓サッシだったので現在とはかなり印象が異なる風景でした。当時、商業科があったので人数も多く、やんちゃな生徒も多かったのです。私は山岳部に所属していたのですが、ワンダフォーゲル部に応援を頼み、大会に出場してもらったこともあり、夏は3泊4日登山に行き、冬はリーダー研修会で尾瀬に行きました。そこで女子高校生と交流できたのでとてもよく記憶に残っています。

本校の生徒には、文武両道を大切にしてほしいです。「文」の面では、勉強だけでなく、本

をたくさん読み、新たな世界へ視野を広げてほしいです。「武」の面では、部活動を通して生きる力を身につけてほしいです。人生ではたくさん挫折することが多いと思いますが、めげずばかりいては心は強くなりません。ぜひ、いろいろな場所で多くの経験を積み、心身ともに強くなって欲しいと思います。生きていくと後悔することはあると思いますが、興味や関心があることにひたむきに取り組む、自分から突き詰めていくことが大切です。また、手段や方法を考え、関連付けながらいろいろなことを学んで欲しいです。

教育実習生に聞く 学習方法

6月に3週間、本校で教育実習をされた納谷雅隆先生(筑波大学 理工学群数学類)に主要3教科の学習方法について教えていただいた。

【現代文】

文章を読むとき、接続詞や筆者の主張に着目し、線を引いた。線を引いた部分を解答で照らし合わせ、自分の着眼点があっているかどうか確認した。文章を読む前に問題を読んでから、何が問われるのかを把握してから取り組んだ。また、芥川龍之介や太宰治などの短編小説を読み、筆者の主張を読み取る力を

着けた。
【古典】.....
古典に苦手意識がある人は、英単語や英文法の暗記量に比べると圧倒的に覚える量が少ないので、「英語より暗記が簡単」という意識を持って、取り組み方がよい。

【数学】

数学は問題集の解説をよく読んだ。問題を見た時に解き方が分かる問題に印をつけ、印がついていない問題、つまり、わからない問題だけを解いた。

【英語】

自分のレベルより低い問題集をやった。長文読解問題集で、英語を日本語に訳さずに、英語のまま理解できるようにするまで文を繰り返し読んだ。また、文法書を最後までやり終えて、文法ルールが理解できたとき、模試の偏差値が10点伸びた。

筑波大学の2次試験は約6割得点できると合格の可能性があり、7割だとほぼ確実に合格する。3年から受験勉強を始めたのでは遅いので、1年の時からしっかりと勉強する必要がある。できない部分をなくし、苦手分野を補えるくらい得意分野を伸ばすとよい。



真剣にメモをとる生徒



学習法を伝授する納谷先生

館林高校の 施設紹介

夏休みが終わり、2学期が始まるが、1年生は、まだ知らない場所があると思われるため、新聞部おすすめの学校スポーツを紹介したい。そして、本校をより好きになってくれたらと思う。

【館林高校のおすすめスポット】

① トレーニングルーム

トレーニングルームは、平成12年1月14日に館林高校の「文武両道」の両立を目指すため、プール西側に建てられた。当時、器具を買うための予算は上限500万円だった。これだけ充実したトレーニングルームは、他校にあまりないので、館林高校の魅力の一つだ。トレーニングルームは、1年に一回点検をしていて、上限が決められた予算内で修理をしている。

使用する時、自分の体力の限界を知らずに、器具の使用方法を間違えると、打撲、骨折、肉離れ、筋繊維の怪我をするおそれがある。また、器具まで壊してしまうこともある。そのため、先生がトレーニングルームにいる状況で使用してほしい。しかし、先生の許可があれば生徒だけでも使用できる。ただし、トレーニングルームでの飲食は禁止だ。

【体育の先生から一言】

安全に使うことが出来る人、そしてサッカー部、陸上部、ボート部、バレー部のように身体的・肉体的な向上を目指す生徒に積極的に使ってほしい。ただし、使用後は器具および手指を必ず消毒すること。



② 図書館

本校の図書館は、およそ2万4000冊の本があり、大規模である。特に、ライトノベルは、他校と比べてかなりの数があるため、本校で最も生徒に借りられている。貸出数の約8割をライトノベルが占めている。しかし、たくさん本があるため、自分の求めている本を館林高校内で、探すことは容易ではない。ただ、ICT教育の

普及によって、Chromebookを使用し本を検索することが可能になった。加えて、本校に無い本は近くの図書館を入力し、その場所にあるかどうか調べられるようになっていく。

本校の卒業生で教育YouTuberの葉一さんが書いた『塾へ行かなくても成績超アツプー自宅学習の教科書』や、SD(スーパードリッシュ)小説新人大賞を受賞した、兎月竜之介さんが書いた『二ーナとうさぎと魔法の戦車』はおすすめの商品である。

【司書の先生から一言】

たくさん本を読んで欲しい。また、リクエストもたくさんしてほしい。

本校にはまだまだ魅力的な部分がたくさんあるので、ぜひ施設を利用して、本校をもっと好きになって欲しい。



クビアカツヤカミキリによる 被害の状況について

近年、桜の木の本数がクビアカツヤカミキリによって減ってきている。そのため館林市では、害虫駆除の対策を行っている。そこで、私たちは館林市役所を訪れ、その現状を取材した。

館林市役所地球環境課の調査では、平成29年度には219本、平成30年度には496本、令和元年度には1272本の被害が報告されている。その原因はクビアカツヤカミキリという中国からの外来種だ。この虫は、桜の木などに穴を開け、卵を産みつける習性がある。名前の通り、見た目は首が赤く、体は艶のある黒色をしている。この虫が桜や梅などの木々の中を食いつくらすことで、木々から栄養がなくなり、枯れてしまう。館林市だけでなく、板倉町や、他の市町村でも同様の被害が出ている。これらの被害を抑えるため、様々な対策が行われている。その例として、木の中に薬を入れたり、木の周りにネットを張ったりする方法がある。

以下、クビアカツヤカミキリについて、地球環境課の方へ行った質疑応答である。



クビアカツヤカミキリ

Q 被害を受けている木に共通点はあるのか？
A 基本的にはバラ科の木の被害件数が多い傾向にあるが、桜の木は被害件数が圧倒的に多い。

Q クビアカツヤカミキリはどのくらいの距離を飛ぶのか？
A 最長で約2キロメートル飛ぶことができる。

Q クビアカツヤカミキリを見つけた時の良い駆除方法は？
A 市販のスプレーでは効果が薄いので踏み潰すのが一番早い。かなり固いので注意が必要。

私たちが子供の頃から慣れ親しんでいる桜が将来なくなるかもしれない状況に、驚きを隠せない。将来の子供たちのために、そして私たちが桜を楽しみ続けるためにも、少しでも被害を減らさなければならぬ。しかし、市だけでの対策には限度があり、市民の方々の協力が必要だ。そのためには、ここで紹介した対策方法をぜひ皆さんに実践してもらい、日本の伝統の木である桜を守っていただきたい。



クビアカツヤカミキリを捕獲する生徒たち

新入部員の声

◆抱負

1年5組 小林 蓮

僕は、高校で勉強を頑張っていた。高校入学後、サッカー部に所属し、運動部ならではのチームワークや一致団結する楽しさを味わう予定だった。しかし、サッカー部を見学した時、中学の部活とはまったく異なる練習風景だった。先輩たちは声をだしてお互いを高め合い、また相手からボールを取る時は、激しく体をぶつけ合っていた。正確なトラップは、中学の部活で見るとは、大違いだった。僕がサッカー部に所属したら、疲れて勉強が疎かになると思い、新聞部に入部することを決めた。学校生活において、部活と勉強の両立は、当たり前だろう。新聞部には、魅力があった。それは、自分たちが書いたものが読む人に影響を与えることができることだ。僕は、この新聞で千代田町の良さや、メディアの大切さを伝えていきたい。入部したからには、常に全力で取り組みたいと思う。新聞部の活動や勉強も自分ができている事を楽しみながら頑張っていきたい。中学時代あまり勉強しなかった自分を超えるために、日々全力で高校生活を過ごしたい。

◆中学の反省を生かして

1年5組 神谷 心温

僕の高校生活についての抱負は、勉強に力を入れることだ。僕は中学の時にサッカー部に所属し、部活と勉強の両立に努めたが、部活に力を入れすぎてしまった。指示

をほとんど聞かない後輩のことや顧問の先生に丸投げされた仕事について考えていると勉強に集中できず成績が下がった。さらに苦手教科である数学と英語の授業に追いつけなくなった。しかし、このまま高校に入学すると同じ失敗を繰り返してしまうと思い、僕は計画を立てて勉強することに決めた。自分がつまずいた点から復習を始め、以前は勉強する時間帯がバラバラだったが、開始時間を固定することに決めた。そうすると以前より勉強に集中することができた。僕は、その経験を生かし、高校生活では絶対復習を怠らないようにしたい。授業で分からなかったところは友達や先生に聞くなどして、その日のうちに解決するようにする。また、新聞部に入部したのでたくさんの人に影響を与えることができる新聞を作りたい。

◆自主学习

1年3組 松井 遼太

入学当初、私の心は不安でいっぱいだった。おそらく、他のみんなもそうだったと思う。授業のスピードがどんどん早くなると聞き、不安は増す一方だった。授業を受けてみると、本当に早く、最初はそのスピードに慣れなかった。当然、授業の内容も頭に入らなくなってきた。そこで、中学生活でやってこなかった自主勉強を始めた。最初はそれも苦痛で、慣れるまで時間がかかった。しかし、日課とならなると、苦痛に感じることは少なくなると、授業で分からなかったところを復習できるようになった。例えば、古典の活用形や、英語の単語だ。このような自主学習に最

初から慣れておかなければ、どんな難しくなり、授業についていけなくなると思う。最終的な目標である大学進学に向けて、今から自主勉強を始めておくことが大切だと思ふ。

◆定期試験

1年1組 田部井 悠吏

高校に入学して初めての定期試験が終わり、不安や後悔が押し寄せた。中学の時と同じようにやれば良いという甘い考えのまま試験当日を迎えてしまった。問題用紙を初めて見たとき、私は過去の自分を呪った。あの時なぜ勉強をしなかったのか、様々な考えが頭をよぎった。答えは一つ。高校のテストを甘く見ていたからだ。二つの教科が中学校に比べ難しいうえに範囲が広いため、日頃からコツコツやらなければ間に合わない。高校の勉強の壁をこのテストで思い知った。授業の復習はもちろん課題にもしっかりと取り組んでいるつもりだった。そう、「つもりだった」のだ。まだ、これでは努力不足だ。高校生活は始まったばかりだ。これからは、時間の使い方や学習の内容を考え、授業への取り組み方を工夫し、次のテストに備えたい。

◆友達

1年3組 大房 林太郎

高校に入学し、不慣れな環境で過ごしていると自分でも気づかないうちにストレスが溜まっていた。心のうちでは「学校に行きたくない」と思っていた時期もあった。そんなピンチを救ってくれたのが友達だ。一人だけでは心細い時に友達

が話しかけてくれて、学校に行く楽しみを作ってくれた。勉強面でも自分一人では理解できない部分を誰かに教えてもらいたいが先生には聞きづらい。そんな時でも友達がいれば気軽に頼める。また、教えてくれた人も学習の理解を深めることができ、さらに友情も深めることができる。高校でできた友達。中学時代からの友達。昔からの友達。出会いはさまざまだが、今後の生活の中で自分自身を成長させるのに必要不可欠な存在だ。これからも一期一会の出会いを大切にしたい。

新聞部紹介

私たち新聞部の活動内容は、記事のネタを決めることから始まる。部員全員で意見を出し合い、読んで面白くない新聞になるように試行錯誤している。ネタが決まったらインタビューをしたり、情報を収集したりして記事を書き始める。主な内容としては、地域や本校についての記事を書いている。記事が完成したら、顧問の先生に確認してもらい、最終的に校長先生の許可を得てから新聞を印刷する。

新聞部は、昨年は部員2名だったが、今年は11名になり、かなり賑わっている。とてもうれしいことだ。人数が増えたことで仕事の分担ができるようになったので、より良い新聞を作っていく。様々なネタが転がっている今日、面白さを伝えていきたい。



市役所で取材をする新聞部員

今年度も新聞コンクールがあり、今回は昨年度の賞を超えることが出来るように頑張りますので、今年度もよろしくお願ひします。 — 新聞部一同 —

編集後記

部長になって、約1年過ぎたが、人数が増え、まとめることの難しさを実感した。これから1年間さらに頑張つて新聞を作っていきたい。(秋津)

初の校外インタビューで市役所に行き、担当の方にインタビューする時、とても緊張したが、スムーズに質問できた。次のインタビューもスムーズに質問できるようにしたい。(郷間)

新聞部に入り初めての新聞作成で慣れないことも多かったが、これから慣れていきたい。(田部井)

今回のインタビューでかなり緊張したが、良い話をたくさん聞くことができた。(向井)